

自然講座

北方四島と知床 ～開発の現状と将来に向けて～

今年度 3 回目の自然講座のご案内です。今回は北方四島のお話です。世界自然遺産に登録される以前から、国立公園としても自然環境保全の取り組みがなされてきた知床。対照的に、歯止めなく開発が進む北方四島。その最新事情を判りやすくお伝えします。

——以下、講師からのメッセージ——

世界自然遺産・知床と北方四島。生態系は同じなのに、未解決の北方領土問題があるために、海峡を隔てて分断されている。その四島でいま、急激な開発が進められている。ロシアの手で侵食される「日本固有の領土」の現実。スケトウダラの豊かな漁場をトロール漁船に荒らされ、漁業者を途方に暮れさせてしまったのは、「海の乱開発」の影響だった。そうした現実を見すえたとき、いま何をしておくべきか。何ができるのか。



～講師紹介～

本間 浩昭（ほんま ひろあき）

同志社大学文学部を 1985 年に卒業後、「黄金の三角地帯」で 1 年余りを過ごし、カエルやネズミ、昆虫食三昧の生活を覚える。毎日新聞入社後もゲテモノとボーダーをこよなく愛し、北方領土最前線の街・根室での勤務は 1989 年以来、足かけ 22 年。NPO 法人「北の海の動物センター」理事。共著に『知床・北方四島』（カラー版岩波新書、2008 年）、『エゾシカを食卓へ』（丸善プラネット、1998 年）など多数。旧石器発掘ねつ造事件の調査報道チームの一員として 2001 年、日本新聞協会賞受賞。

日 時： 2010 年 10 月 14 日（木） 18:30-20:00

場 所： 羅臼ビジターセンター（湯ノ沢町）

対 象： どなたでもお気軽にどうぞ！（申し込み不要・参加無料）

【お問い合わせ】

● 知床財団 羅臼地区事業係

担当：山本、新藤

TEL: 0153-87-2828